

No.	質問	回答
1	鎌倉市の海水浴場はどこですか。	材木座海水浴場、由比ガ浜海水浴場、腰越海水浴場の3つを開設しています。
2	開設期間はいつまでですか。	7月1日から8月31日までを基本としています。 また海水浴場は午前9時から午後5時まで開場しています。
3	海水浴場を運営しているのはどこですか。	海水浴場の開設者は鎌倉市です。 そのため、ライフガードの配備等の安全対策、監視所や放送設備の設置、ゴミ箱の設置や回収、コースロープや看板の設置等、海水浴場に必要様々なものの準備・運営を行っています。 なお、海の家は民間事業者である組合が営業をしており、市とは別の組織です。
4	鎌倉市の海水浴場にはどれくらいの人 comes ますか。	令和5年度の海水浴客数は246,420人で、令和4年度の277,170人より、30,750人減少(約11.1%減)しました。 令和2年、3年はコロナウイルスの影響もあり海水浴場は開設していません。 令和元年度の海水浴客数は355,000人、平成30年度の海水浴客数は700,000人でした。 【参考 市ホームページ】 https://www.city.kamakura.kanagawa.jp/kankou/2020kankokyakusuu.html
5	海水浴客数が減少傾向にある理由はなんですか。	荒天や酷暑等、夏季の天候による影響も人手を大きく左右しますが、人々のレジャーの多様化や海に来ても遊泳を目的とせず日暮れから来訪するといったライフスタイルの変化が大きな要因だと考えています。
6	海水浴場のマナーを守るための取組はありますか。	市では条例により、砂浜での飲酒、入れ墨などの露出、音響機器の使用、火器の使用等を禁止行為と定め、海水浴場内の風紀の維持に取り組んでいます。
7	鎌倉市の海水浴場の独自の取組はありますか。	先進的な取り組みとしてドローンによる監視体制があります。沖からの水上オートバイの監視や溺水者の発見等で有効と考えています。 また最も人手の多い由比ガ浜海水浴場では、海辺のみまもりシステムという離岸流をAIカメラで検知する機器の導入や国際認証制度であるブルーフラッグの取得にも取り組んでいます。

No.	質問	回答
8-1	国際認証制度ブルーフラッグとはなんですか。	<p>海辺の国際環境認証「ブルーフラッグ」とは、世界で最も歴史ある国際認証制度で、1985年にフランスで誕生し、2023年5月現在で、世界51か国、5,036か所が取得しています。ブルーフラッグは①水質、②環境教育と情報、③環境マネジメント、④安全性・サービスなどの分野について、30以上の項目の認証基準を達成すると取得ができ、毎年審査を受けます。</p> <p>当市では平成28年4月から由比ガ浜海水浴場においてこの認証制度を取得しており、現在まで認証を受けています。</p>
8-2	ブルーフラッグ取得の際、困難なことはなんですか。	<p>認証基準を満たすため、常に清潔な海岸を保つ、監視体制を整える、環境教育を行う等の取り組みが必要なことから、地域住人や海の家、漁業者、海水浴場のライフガード、環境活動団体など、様々なステークホルダーの理解や協力が必要です。</p> <p>また、様々な申請書類を手配する必要があり、取得に対しかなりの事務量を要する点もあります。</p>

8-3	ブルーフラッグ取得したことで、どういった影響がありましたか。	環境教育やビーチクリーン、バリアフリー等に関し一定の基準をクリアしていることが対外的にみとめられるため、意識の醸成につながっています。
9	他自治体との連携事業はありますか。	逗子市、葉山町と連携して協議会を運営しています。この協議会を通じて、情報共有や意見交換を図るとともに、ごみ分別の啓発や子ども達への海の環境教育、感染症予防の看板作成等を実施しました。
10	海水浴場の運営にどの位の費用がかかっていますか。	令和5年は、予算として約1億2千万の費用を見込んでいます。この約1億2千万は、監視所の設置や海岸の整地、ライフガード・警備員の配備、ごみの運搬回収等でかかる費用です。
11	海水浴場のバリアフリー対策はどんなものがありますか。	由比ガ浜海水浴場では、車椅子のまま砂浜に降りることが可能なスロープが整備されています。またボードウォークというフラットな木製の通路で海の家等の動線をつなぎ、障害を持つ方でも施設の利用や移動がしやすい取り組みを、組合が主体となり行っています。また由比ガ浜監視所では水陸両用車椅子の貸し出しと利用の際の補助員を配備しています。また、由比ガ浜海水浴場、材木座海水浴場の常設公衆トイレには障害を持つ方でも利用しやすいトイレを整備しています。